

『5S & Kaizen : 現場のムダ取りで利益増大』 シラバス

T. Shimizu

(a) 目的 :

生産会社にとって、重要な点は、モノづくりの4Mを使って、出来るだけムリ・ムラ・ムダの無い生産を行い、お客様が満足するQCDを実現する事です。しかし、実際の現場には沢山のムリ・ムダ・ムラが発生しています。

このムラ・ムダ・ムラの無い生産を行うためには、先ず5S活動(整理・整頓・清掃)を行う必要が有ります。会社のトップから第一線の作業員迄全員が一丸となった5S活動、その中核である3S(整理・整頓・清掃)活動を進める必要が有ります。

この3S活動が職場に定着し、習慣化されると、職場は見違えるようにきれいになると同時にその職場で働く従業員全員が明るく積極的な人材に生まれ変わります。

その後に現場に内在する沢山のムダを見つけムダの量を計量化します。これを「ムダの見える化(Visual Management)」と言います。

次にこのムダの見える化(VM)によって顕在化したムダを取り除く活動つまり『Kaizen』を行います。

この一連の『5S & Kaizen』の活動を本セミナーでは学びます。

効果的な『5S & Kaizen』を実施するためには、基本を学ぶことが重要です。

「現場・現物・現実」の精神に則り、「何がムダで何が有効な作業か」を原理・原則に基づいて説明し、実践を通して体得してもらいます。

ムダが正しく見えるとKaizenは一挙に進展します。

Kaizenの基本は「止める・減らす・変える」或いは「ECRS」です。

具体的には沢山のKaizen手法を学んで頂きます。「原理・原則」に基づいて理論を理解したら、次には実際の事例紹介を致します。その上で具体的テーマについて実践をして頂きます。

モノづくりは幾ら沢山の理論を学んでも現場で実践できなければ意味が有りません。このセミナーでは机上では有りますが、現場に近い形での疑似体験によってKaizenのKnow-howを体得して頂きます。

今回は沢山のKnow-howと事例とVideoを用意しました。

受講者の皆さんの熱意と習得能力によって得られる果実は異なります。是非この機会を十二分に生かして頂きたいと思えます。

また、現場に帰ってKaizenを実施した場合には、教室で理解した通りの結果にはならない場合が有ります。その時は改めて講師に直接問い合わせを頂ければ講師から直接「ヒントや助言」を提供いたします。

(b) 対象者 :

- ・製造現場に所属する工場長・管理者・リーダー・スタッフ等

- ・生産現場以外の管理者・スタッフでモノづくりの改善の仕方を学んで職場を改善したいと思っている人

(c) シラバス案とその理由：

人間は共通に2つの目を持っています。そして現場やモノを見れば誰もが同じように見えているはずですが、ところが、同じように見えている現場が、実はモノの見方の違いによって、見え方は大きく異なっています。

現場を『有効な作業とムダな作業の見方』を理解した目で見ると、同じ現場でも沢山のムダが見えてきます。IE (industrial Engineering) の視点で見ると、人の動作は18種類の動作に分けられますが、有効な動作は3つだけで15種類の動作はムダです。従って、先ず『ムダと有効作業の原理原則を知る』事が必要です。

ムダが見えてくると次は『ムダ取り (Kaizen)』を行う事が可能になります。Kaizen の式本は5 Gen(現場・現物・現実+原理・原則)に基づいて「止める・減らす・変える」や「ECRS」や「少同短楽」の視点でKaizen の具体的なアイデアを見出すことです。Kaizen は何も新しいものを発明する事では有りません。世の中にある無限の事例の中からヒントを得てKaizen に繋がる方法を見つけ出す事です。従って本セミナーでは沢山の事例を紹介します。

また、事例を単に見たり聞いたりしただけでは、実際の現場では応用が出来ない場合が多いと思いますので、グループ演習をして頂きます。

これらの事例、Video、演習を通してKaizen の Know-how を体得して頂きたいと思います。尚、『5 S』が定着していない現場においては、Kaizen は砂上の楼閣で効果は出ません。Kaizen を実施する前に必ず5 S 中でも「3 S ; 整理・整頓・清掃」を実施して頂く事が必要です。本セミナーでは効果的な「3 S」活動の進め方を学びます。

「3 S」の基本は

- ① ルールを決めて、ルールを守る
- ② 不要な物が無い職場を実現して安全できれいな職場を作る
- ③ 探すムダを無くし、直ぐに取り出せる3 T と FIFO を実現する

です。以上の5 S と Kaizen によって得られた効果は直接的に工場の「利益増大」に繋がります。受講者皆さんの奮闘を大いに期待します。

備考

演習 : 毎日午前1回 午後1回 合計6回

事例紹介 : 合計 50 テーマ

参考映像 : 合計10 テーマ

Kaizen Know-how : 50 テーマ

(d) 日程と主な項目

日程	項目	内容
第1日目 AM	5S活動がモノづくりの土台： 5Sが徹底していない職場は、先ず5S活動から	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は3S（整理・整頓・清掃） ・仮に3Sが出来ていないとどうなるか ・計画的な3S活動： PDCAと組織化、評価の仕方と褒賞 ・3Sは長期戦：楽しく、後戻りしない活動 ・3Sの具体事例 <p><演習></p>
第1日目 PM	ムダの見つけ方： 見方を変えることで沢山のムダが顕在化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ムダの見える化の重要性 ・人の動作は18種類、有効動作は3種類（サブリック分析） ・作業の3要素（有効作業、付帯作業、ムダな作業） ・現場に起こる代表的な7つのムダ ・ビデオによる時間分析 ・TPMの18大ロスの分析方法 ・QC7つ道具による分析 <p><演習></p>
第2日目 AM	作業カイゼンの方法： 動くと働くは違います。 作業分析を行って、ムダ取りによって限りなく有効な作業の比率を高め、100%に近づけることが目標です。	<ul style="list-style-type: none"> ・標準作業の重要性 ・ムダの見える化の重要性 ・サイクルタイムとタクトタイム ・工程の4大ロス ・動作経済の原則に基づくカイゼン（ECAS・少同短楽・止める/減らす/変える） ・TOC理論と実践（ボトルネック・バッファ・ドラム） <p><演習></p>
第2日目 PM		<ul style="list-style-type: none"> ・カイゼン3点セット（工程別能力表・標準作業組み合わせ表・標準作業表） ・山積表・生産管理板の活用 ・ポカヨケカイゼン ・からくりカイゼン <p><演習></p>
第3日目 AM	工程カイゼンの方法： 材料投入～完成品倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・物と情報の流れ分析 ・工程カイゼン4分類

	<p>までの流れを分析してムダのない工程を目指します。</p> <p>止まらないものづくり・最短のモノづくりが目標です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラインバランスカイゼン ・マン・マシンチャート分析 ・着々運動 ・多能工化 ・多工程持ち作業 ・段取替えのカイゼン（内段取り・外段取り・一発段取り） <p><演習></p>
<p>第3日目 PM</p>		<p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カイゼンは無限 ・まとめ

(e) 開催日：2021年11月08日 - 2021年11月10日